

年 組 名前:

若者の地域学習支援10年

富士吉田のNPO法人

地域学習支援に取り組む富士吉田市のNPO法人「かえる舎」(齋藤和真代表理事)が今年、活動10年の節目を迎える。延べ5千人以上の子どもを対象に、地域の特徴を

23日催し 活動振り返る

取り入れたかるた体験や、市内の若手社会人を招いたキャリア教育講座などを開催。地域の課題と向き合い、魅力を再認識してもらう機会を提供してきた。高校生有志でつくる地域活性化グループ「かえる組」が生まれるなど活動の輪も広がっている。23日には市内で10周年記念イベントを開き、これまでの活動の歩みを振り返る。(小林諒)



10周年記念イベントの準備を進める高校生やかえる舎のスタッフ
—富士吉田市内



小林 諒一、森 航平(富士北麓)
武田 寛明(大月・上野原) 森 航平(都留)

かえる舎は2016年4月、市の地域おこし協力隊員を務めた齋藤さんと赤松智志さんが設立。地域住民と触れ合う中で若い世代に富士吉田をもっと好きになってほしいという声を多く聞き、地域の魅力を知ってもらう活動に力を入れたいと考えたのがきっかけだった。かえる舎には「自分をかえる」「地域をかえる」との意味を込めた。活動の当事者と地域住民がともに挑戦して成長していく姿を目指しているという。市と連携し、市内の全小中高で地域学習に関わる授業に年間約300時間携わってきた。地元の歴史、

文化や富士山噴火への備えを学ぶかるた体験や、商店街のCM制作、ふるさと納税の返礼品や出品業者を紹介する冊子の作成などをテーマにしてきた。活動をきっかけに生まれた高校生有志でつくるかえる組は、市産のコメを使ったみそ造りや、地元スーパーと共同で吉田のうどんを員材にしたおにぎりの開発、郡内織物の生地を活用した電車の中つり広生製作などを手がけてきた。16年の結成時に18人だったメンバーは、現在は約70人に増えている。齋藤さんは「授業で学んだ子どもたちが社会人となり、次世代の若者に地元で働くやりがいや伝える好循環が生まれている」と説明。「地域の未来を考えて行動する思いを持った若者であふれる市を目指したい」と話している。

(2026年2月19日付 山梨日日新聞 18面)

問1 富士吉田市のNPO法人「かえる舎」は、地域の人に、どのような機会を提供していますか。

.....

問2 NPO法人名には、どのような意味が込められていますか。

.....

問3 NPO法人の齋藤さんは、この活動から、どのような市になることを目指していますか。

.....